

東京都調布市 校務DX計画

1 校務DX推進の背景

デジタル技術の進歩に伴い、教育現場においても急速にGIGAスクール構想を通じてデジタル化が進んでいます。

しかし、教職員の業務においては、紙による手続きや手作業を必要とする場面が多く、改善の余地がある状況です。これらの業務は教職員の時間と労力を消費するだけでなく、ミスやセキュリティリスクを高める要因となっています。

文部科学省では、令和5年3月に「GIGAスクール構想の下での校務の情報化に関する専門家会議」の提言を取りまとめ、次世代の校務DXの方向性を示したところです。ここでは、クラウドサービスの利用及び情報連携を前提としたネットワーク及び校務支援システムの整備と活用により、教職員や校内・校外の学校関係者、教育委員会職員の負担軽減・コミュニケーションの迅速化や活性化が可能であるとしており、効率的な学校運営のために校務のDXが求められています。

2 調布市教育委員会の取組

これらを踏まえ、調布市教育委員会として下記項目について取組を進めていきます。

(1) クラウドサービス活用の推進

調布市教育委員会では、クラウドサービスの活用による教員間のコミュニケーションの円滑化、業務効率の向上、ペーパーレス促進に取り組んできました。

これらの取組により、FAX・押印が必要な業務について効率化に努めてきましたが、教職員のICT活用能力向上のための支援拡充や好事例の横展開などにより、一層の推進を図ることで、教職員の教育活動に専念できる時間の増加及び教育の質の向上を目指して参ります。

(2) 校務支援システムのクラウド化

児童・生徒の成績等を取り扱う校務支援システムについては、引き続き取り扱う情報の重要性を十分に考慮しつつ、東京都及びGovtech東京が行う統合型校務支援システム共同調達検討部会に参画しクラウドシステムの共同利用に向け検討します。

また、校務系情報と学習系情報の連携やデータ連携基盤(ダッシュボード)の創出を視野に入れた次世代型校務支援システムへの移行によるクラウドで取り扱う情報幅の広がりを踏まえ、ゼロトラストの考え方に基づくアクセス制御等、セキュリティ対策の強化についても調査・研究を進めます。

これらの検討にあたっては、名簿情報や出欠情報等のデータ入力や成績管理の効率化が図られるシステムの導入・利用を検討し、教員の働き方改革に資するものとします。